並木幼稚園だより

［建学の精神］
感性の豊かな「日本の心」を
持った真の国際人の育成

令和３年度　２月号
学校法人志賀学園並木幼稚園
発行者：園長　渡部栄城

ここで紹介しようと思ったのですが、紙面が圧倒的に足りなくなることが分かり、別紙で紹介することにしました。それは、「令和３年度　郡山市私立幼稚園・認定こども園 PTA 連合会ブロック研修会」の「研修用　You　tube　動画」の一部です。ブロック研修会は新型コロナウイルス感染防止のため昨年度に引き続きオンライン研修となりました。動画を視聴しましたところ、約１時間かかりました。どれも子育てに役立つ内容だったのですが、全部を紹介したら長すぎて却って読んでもらえないと思い、一番参考になると思われたところだけをまとめてみました。

タイトルは**「上手なほめ方・叱り方」**です。

最初に、最後のページを紹介します。

１００点満点・大正解の「ほめ方・叱り方」はない。
完璧な親などというものは、存在しない。

誰のための子育てなのかを考え、できそうだと思えることから、一つでも二つでもいいので、少しずつ実行していきましょう。

動画をデジカメで撮ってまとめたので、読みにくい所が多々あって申し訳ありません。
読みにくい（５）と（６）を、次に記します。

（５）

ほめ言葉バンク　　どんな言葉で……？

過程に目を向ける……「がんばってるね。」「たくさん練習したね。」
能力に目を向ける……「お風呂掃除を頼むとピカピカにしてくれるからうれしいな。」
個性に目を向ける……「そういう色を選ぶってすごいなあ。おしゃれだね。」
性格に目を向ける……「そういう〇〇ちゃんの優しいところが好きだよ。」
フォローしながら……「言い方はきついけど、はっきりしているところは好きだな。」
他人の称賛を伝える……「お母さんの友達が、言葉遣いがきれいだってびっくりしてたよ。」
「見習おう」「真似していい？」……「毎日続けてえらいな。お母さんも見習おう。」
第３者へ本人の前で間接的にほめる……「この子が手伝ってくれるから、助かっているんです。」
一緒に過ごすことへの喜びを述べる……「あなたと一緒に食べるとご飯がおいしい。」

（６）

「ほめる」　でも、こんなことには気をつけて

① 「子どもは、ほめればほめるほどいい」？
　・「過度にほめる」ことの弊害⇒こうすればほめられる。（＝しないと叱られる。）
② 「こんな子になってほしい」という親の期待？
　・「親の期待」⇒「親自身の満足」になっていないか？　「子ども自身のためには……」
③ ほめなければできない子」にしていない？
　・ほめられなくても、ほめる人がいなくても行動できる子にしていくことが目的
④ 「何かができる」「できない」が大切？
　・子どもの自己肯定感（人の評価に左右されない自信）を高めることこそ親の務め

ここまで記して思い出したネタがあります。思い出したのも何かの縁と思い、記します。

死刑囚の歌
☆この身体　鬼と仏とあい住める（大阪　死刑囚）

☆この手もて人を殺せし死囚われ
　　同じ両手に今は花活く　　（島　秋人）
☆うそ一つ云いえぬほどに変わりたる
　　身のいとしさを尊く覚ゆ　（島　秋人）
☆世のためになりて死にたし死刑囚の眼は
　　貰い手もなきかも知れぬ　（島　秋人）

島　秋人
　　島　秋人さんの紹介（本『遺愛集』の中からの引用）
　昭和９年６月28日生まれ、幼少を満州で育った。戦後父母とともに新潟県柏崎市に引き揚げたが母は疲労から結核になり間もなく亡くなった。本人も病弱で結核やカリエスになり、７年間もギブスをはめて育ったが、小学校でも中学校でも成績は一番下だった。周りから、うとんじられるとともに性格がすさみ転落の生活が始まった。少年院にも入れられた。昭和34年雨の夜、飢えに耐えかねて農家に押し入り２千円を奪い、争ってその家の人を殺し、死刑囚として獄につながれることになった。
　中学の頃、たった一度だけほめられた記憶を忘れられず、獄中からその先生に手紙を出したことがきっかけとなり、秘められた“うた”の才能の扉が開かれ、身も心も清められていった。昭和42年11月２日小菅（東京都葛飾区にある地名）にて処刑。
　この本には、島　秋人さんの手紙や短歌が載っています。上に書いたように、島さんは、死刑囚でした。獄中から中学校の先生に手紙を出しました。獄に流れるまで１回しかほめられた経験がないとは、まったくひどい話だと思います。手紙を受け取った吉田先生は返事と一緒に子どもさんの絵と奥さんの短歌を送り返されたそうです。そのことがきっかけとなり、短歌を書き始めたわけです。

　1960 年の新潟地方裁判所での死刑判決後、中学時代の担任教師から短歌を贈られたことをきっかけに短歌を詠み始める。1962 年からは毎日歌壇の窪田空穂選に投稿を開始。同年１月 28 日に初入選を果たし、その後も入選を繰り返し、その存在が広く知れ渡ることとなる。1963 年に毎日歌壇賞を受賞。

　1967 年 11 月２日、小菅刑務所（現在の東京拘置所）で死刑執行。享年 33。

（出典　島　秋人『遺愛集』）

いかがだったでしょうか？
まだスペースがあるので、私が小学校の教頭時代に、あるお母さんからお聞きしたお話です。

教頭先生、もう、うちの学校ではありませんが、かつてあったことで。　（略）　要は、みんなで自分たちの先生をほめるようにしたんです。そしたら、そしたらですよ、その先生、変わっちゃったんです。それまでやらなかったことを子ども達のためにやってくれたり、子ども達からも人気が出たり、お別れの時には、もう、涙、涙　だったんです。

以上です。もう一つ思い出したことを。家庭訪問での会話から。（私ではなく、ある記事から）
「先生、うちの子どもの悪いところは、私だって親ですから、百も承知です。先生、先生は教育者のプロなんですから、うちの子のよいところを見つけてください。よいところを言ってください。親でもわからないことを。」

これには、ぐさっときました。そして、なるほどと思いました。